



組合
理念

夢ある未来へ 人とともに、街とともに、大地とともに…

(組合が存在する意義、理由、目標を表わしたものです)

JAあつぎは、組合理念のもと、「農業を軸とする地域に根ざした協同組合」として、支所店を中心にさまざまな事業活動を展開しています。准組合員の皆さまにおかれましては、当JAの事業をご利用いただくとともに、各地区で展開する協同活動にご参加いただき感謝申し上げます。地域の農とくらしをともに支えるパートナーである准組合員の皆さまが当JAの事業を利用していただくことは、厚木市・清川村の農業の発展に役立っています。准組合員の皆さまに管内農業やJA事業に関する理解をさらに深めていただくための広報紙として「Green Page」をお届けします。

地域農業と食の未来を考えよう

JAあつぎ管内では、米や野菜、果物、花など、さまざまな地場農畜産物が生産されています。その背景には、生産者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加など、未来の食を担う地域農業の維持・発展に向けた課題も少なくありません。今回は、組合員組織の中でも地域の生産者組織である生産組合や若手農業者が集う青壮年部、地域と密接した活動を行う女性部の代表者に、それぞれが考える地域農業と食の未来についてお話を伺いました。



JAあつぎ
生産組合長会
会長

うちうみ のりゆき
内海 則行さん

生産組合って？

農業や暮らしを通じた組合員同士のつながりにより、明るく元気な地域づくりに向けて活動を展開しています。

●地域の課題に向き合う現状

生産組合は、各地区に住む組合員が同じ方向を向いて活動していくための大切な組織です。組合員の間でも、生産者の高齢化や耕作放棄地などの話題が上がります。また、農業に対し「収入が少ない」「体力仕事が多い」などのイメージから、若い世代の農業への参入が少ないと感じています。

●“協同の精神”を大切にしたい農業を

地域農業の未来を考えるにあたり、組合員同士が協力し合い、JAと連携しながら、販売を見据えた栽培品目の選定や、栽培・出荷期間の調整など、農家所得の向上に向けた取り組みのほか、事業のモデルとなるような指標を示すなど、皆が安心して農業を営める仕組み作りが重要になってくると感じます。また、農作業の効率化に向け、スマート農業の導入も積極的に進めていくべきだと感じています。

地域農業を守り、発展させていくには、互いに助け合う姿勢を忘れず、協同の精神を持ち続けていくことが重要だと考えます。



JAあつぎ
女性部協議会
会長

やまぐち なみえ
山口 波江さん

女性部って？

食や農、暮らしに関心のある女性が集まり、健康で心豊かな生活を送るため、多岐にわたる活動を展開しています。

●女性ならではの視点を生かし活動

女性部は、地域の女性たちのアイデアを結集し、互いに楽しみながら活動しています。農業体験や生産者との交流など、地域農業への理解促進につながる取り組みをはじめ、消費拡大に向けた地場農畜産物を使ったレシピの考案や料理講習会の開催など、食と農を基軸とした活動を展開しています。

●食の情報発信で地域農業を支える

部員の中には、農業に携わっている人も多く、食と農のつながりを学ぶ機会も多くあります。今後は、部員が学んだことを地域に向けて発信し、消費者である地域住民に地産地消の大切さを伝え、地場農畜産物の消費拡大につなげていきたいと考えています。

また、未来への取り組みを継承していくためにも、次代を担う部員との連携を一層強化し、部の活性化につなげていくことも大切です。

こうした活動が、新鮮で安全・安心な地場農畜産物を販売する生産者の活力となるよう、共に地域農業の未来を守っていききたいです。



JAあつぎ
青壮年部
部長

ほりいけ あつし
堀池 篤さん

青壮年部って？

農業の担い手である若手農家が集まり、助け合いながら、より良い地域農業の実現に向けた取り組みを展開しています。

●地域との関わりを意識した活動

青壮年部は、これからの地域農業を支えていく中核的な役割として、常にアクティブな発想を持って活動しています。青壮年部では、農業を続けていく環境づくりの一つとして、農産物の対面販売や寄贈など、地域の人々との関わりを常に意識した活動を行っています。

●多様な視点から見る農業と食農教育

管内では、生産者の高齢化や耕作放棄地などの課題がありますが、現在、農業後継者や新規就農者などの若手農家が積極的に農業に取り組んでいます。農業に対するさまざまな視点や考え方を部員同士で共有し、明るい地域農業の未来に向けて生かしていきたいと考えています。

また、地域の人々へ農業に親しみを持ってもらい、農業理解を深めてもらうためにも、次代を担う子どもたちへの食農教育は大切だと考えています。

今後は、厚木市・清川村の農業の特徴でもある都市型農業を生かし、地域全体で農業を守っていくことが必要だと考えます。

JAとともに、食と農への歩みを始めよう！

食と農、JAの今を学ぼう！ 地域の食と農の現状について学び、未来のためにJAの各組織が取り組んでいる活動に目を向けて、私たちができることについて改めて考えてみましょう。



食の今って？

日本の食料自給率は、2020年度で37%となり、私たちの食料の約6割は輸入に頼っている状況が続いています。

さらに、大豆や小麦、トウモロコシなどの輸入に頼っている食品の価格上昇が重なり、私たちの食卓のみならず、企業や飲食店などにさまざまな影響が出ています。

家庭の食卓で見る品目別自給率



農の今って？

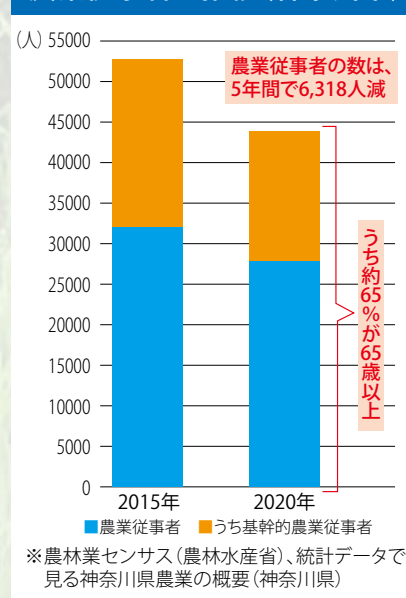
日本の農業従事者の数は年々減少しているだけでなく、全体に占める65歳以上の農業従事者の割合が約7割を占めています。

それに伴い、高齢化や労働力不足で農地が荒廃し、遊休化が進んでいます。この他、地球温暖化の影響で年平均気温が上昇し、農作物にも影響が出るなど、被害が広がっています。

年平均気温



農業従事者の推移(神奈川県)



農地の減少(神奈川県)



生産組合の活動

共同防除で農業用水路の泥上げを実施



水路の泥上げを行う組合員

厚木市戸田地区では、若い水稻の葉を食害するスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)から地域の農業環境を守るため、組合員とJAが連携してさまざまな対策の強化を図っています。また、地域支援や地産地消のPRに向け、医療従事者や幼稚園、保育園などに地場農産物の寄贈を行うなど、地域住民に食と農のつながりを伝え、地域農業に親しみを持ってもらえるよう呼び掛けています。

地元の特産品などを行政や幼稚園、保育園へ寄贈



保育園へ地場産花きを寄贈



清川村へ清川茶・足柄茶を寄贈

女性部の活動

旬の地場農産物を使った料理を考案



女性部員の有志で結成したサザエ会のメンバー

女性部の有志で結成した「食と農を考える会～サザエ会～」による旬の地場農産物を使ったレシピの作成・配布をはじめ、地元生産者の畑での農業体験など、食と農に関わる活動を行っています。また、JAと地域農業をより身近に感じてもらうと、「JAあつぎゆめみちゃん音頭」を制作。地域の特産物などを盛り込んだ歌詞と親近感のある踊りで、JAや農業の魅力をPRしていきます。

生産者と交流し農業理解を深める



生産者からミカンの収穫方法を学ぶ部員

踊りでJA・地域農業を身近に



JAあつぎ公式YouTubeで音頭を紹介

青壮年部の活動

地域の景観美化に取り組む



一面に広がるヒマワリに笑顔を見せる部員

地域の景観美化と緑肥の活用に向けヒマワリ栽培に取り組むほか、地域住民に地元で生産される農産物を知ってもらい、地域農業や地産地消への理解を深めてもらうと、対面販売などを実施しています。また、「次代を担う部員が地域へたくさんの農畜産物を届けられるように」という思いを込め、青壮年部のシンボルとなるロゴマークを新たに作成しました。

対面販売で地域住民と交流を深める



新鮮な農産物を販売する部員

青壮年部の新たなロゴマークを作成



ロゴマークを掲げる堀池部長



食と農の未来のために私たちができること

日本の食を支える農業は、インフラの一部であり、なくてはならないものです。地域農業の未来を守っていくことは、私たちの食の未来を守っていくことを意味します。コロナ禍で、さまざまな国で入国制限や輸出制限などが相次いだ時、もし日本が輸入している食料の輸出が途絶えてしまったら...と考えた人も多いのではないのでしょうか。食と農の未来を守るためにも、これから私たちができることを考えてみましょう。

日々の買い物に意識を向けよう

●「今が旬」の食べ物を選ぶ

「旬」の農産物は、最も適した時期に無理なく作られているので、余分な手間や燃料などを必要としません。味も良く、栄養もたっぷりで、体にも環境にもやさしい食事を取ることができます。

●地元で採れる食材を日々の食事に取り入れる

私たちが住んでいる土地には、その風土や環境に適した農産物が育ちます。身近で採れた農産物は新鮮です。一人ひとりが地元の食材を選ぶ意識を持つことが、地域の農業を応援することにつながります。



旬の野菜や地元のものを選ぶことで、地元の農家さんの応援につながるんだね！

農業への理解を深めよう

●農業体験に参加する

食べることの大切さを学ぶためにも、農業体験に参加してみましょう。作物を作ることの楽しさや難しさなどを実際に肌で感じられ、農業への理解を深めることにつながります。

また、将来を担う子どもたちに、土に触れることの大切さを伝え、食と農のつながりを伝えることも重要です。



JAの総合事業は、夢ある未来をつなぎます！

●私たちの一歩が食と農の未来をつなぐ

JAあつぎは、持続可能な農業と豊かで暮らしやすい地域社会の実現に向け、総合事業を展開しています。

農業に関わる事業はもちろん、金融・共済事業をはじめ、購買や葬祭などの経済事業、高齢者福祉事業、不動産事業など、多岐にわたるサービスで、食と農を基軸とした地域・社会貢献活動にも取り組んでいます。

JAの事業を利用したり、活動へ参加することは、持続可能な地域農業を支援することにつながるとともに、私たちの食と農の未来をつないでいく力になります。私たちの生活に欠かせない食と農を守っていくためにも、今できることを実践し、夢ある未来へ歩みを進めていきましょう。





和洋中の幅広い料理に使える「イタリアンパセリ」



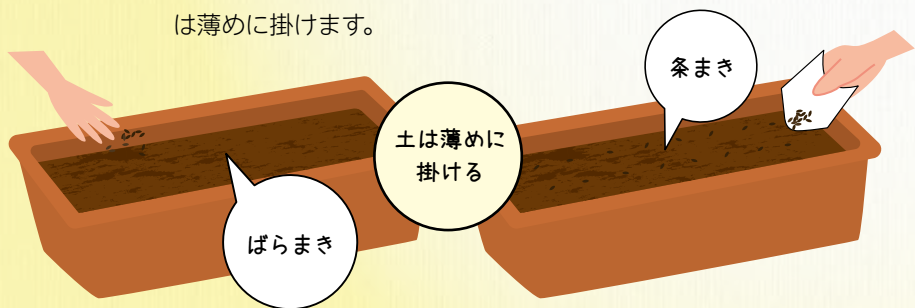
パセリと聞くと、料理の飾りというイメージがありますが、イタリアンパセリは癖が少なく、葉もセリのように平滑で柔らかいので、サラダや炒め物、おひたしなどさまざまな料理に使えます。

直射日光に当たると、葉が固くなるため、やや日陰に植えれば暑さや寒さにも強く、育てやすいハーブです。



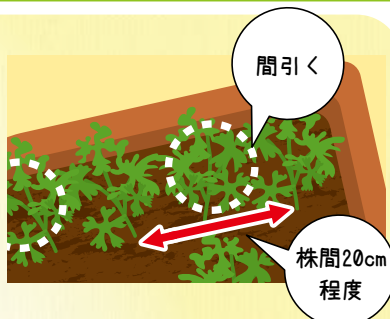
POINT 1 種まき

種まきは3月下旬から5月頃、または、9月頃に行います。プランターなどに入れた水はけの良い土に、ばらまきか条まきにして、土は薄めに掛けます。



POINT 2 間引き

本葉が出て株が混みあってきたら、少しずつ、株の間を空けるようにして、20cm程度の間隔に間引きします。抜き取った株は、ベビーリーフやサラダ、パスタのトッピングとして無駄なく食べられます。



POINT 3 水やり・肥料・収穫

水やりは、土の表面が乾いたらたっぷりと与えてください。肥料は、1回目の間引きの頃から、2週間に1回程度与えます。草丈が20cmほどになったら、必要な量を株の外側からかき取ります。



POINT 4 おすすめの食べ方・保存方法

大量に収穫できたら、ツナとマヨネーズでサラダにするか、ベーコンと一緒にさっと炒めるのもおすすめです。

また、水洗いして水気を取り、耐熱皿に乗せて600Wのレンジで2分加熱し乾燥させた後、すりこぎなどでたたいて粉碎すれば、長期保存できます。プレーンオムレツやスープなどに粉末を混ぜて調理するのもおすすめです。



家庭菜園に必要な資材は「グリーンセンター」で全て揃います！
野菜によって、育て方や仕立て方が異なりますので、お気軽にJA職員へお問い合わせください！

旬のおすすめレシピ

菜の花



菜の花ってどんな野菜？

菜の花は、アブラナ科アブラナ属に分類される植物の黄色い花の総称で、花菜（はなな）とも呼ばれています。ビタミンCの含有量は野菜の中でもトップクラスです。白血球の働きを強めることで、風邪などの病気に対する免疫力を高め、貧血予防やコラーゲンの育成を促進するなどの美肌効果も期待できます。

お祝いにぴったり！簡単菜の花ちらしずし

【材料(2人分)】

- ・菜の花 1/2束
- ・ご飯 340g
- ・サラダ油 適量
- ・桜でんぶ 適量
- A・卵 2個
- ・砂糖 少々



お好みで、型などで切り抜いたニンジンなどを添えれば、彩りも鮮やかに♪

- B・酢 大さじ2と1/2
- ・砂糖 小さじ1
- ・塩 小さじ1/4



【作り方】

- ①菜の花は茎と穂先に切り分け、茎は小口切りにする。
- ②鍋に水と塩ひとつまみ(分量外)を入れて沸騰させ、茎からゆでる。30秒後に穂先を加えてさらに30秒ゆでてザルにあげ、少し冷ましてから軽く絞って水気を切る。
- ③ボウルにAを入れ、混ぜ合わせる。熱したフライパンにサラダ油をひきAを入れ、細かいそぼろ状になるまで3～4分炒める。
- ④ボウルにご飯を入れ、Bを加え、しゃもじで切るように混ぜ合わせる。粗熱が取れたら、菜の花の茎を加え、混ぜ合わせる。
- ⑤④を器に盛り付け、菜の花の穂先を散らし、③と桜でんぶをのせて完成。

プレゼントクイズ どなたでもご応募いただけます

問題 農業の担い手である若手農家が集まった組織の名前は？

ヒント 当広報紙内にヒントがあります

JAあつぎ〇〇〇部

応募方法 ハガキまたはFAX、ホームページにて

①～⑦の項目を記載し、ご応募ください。

■ハガキ／右記の通り

■FAX／046-223-8814

■ホームページ／

<https://www.ja-atsugi.or.jp/form/greenpage/>

締め切り 2022年3月31日(木)

QRコードを読みとるとホームページの応募フォームが表示されます。



正解者の中からプレゼント

正解者の中から抽選で10名の方に夢未市等で使える商品券1,000円分をプレゼント！当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

※ご記入いただいた個人情報は、抽選、賞品発送に利用するほか、個人を特定できない統計情報としてうえで、マーケティング等に利用させていただきます。



- ①答え
- ②郵便番号・住所
- ③氏名
- ④年齢
- ⑤電話番号
- ⑥当広報紙で取り上げたい欲しい情報
- ⑦当広報紙へのご感想やJAに対するご意見・ご要望

※①～⑦すべてをご記入ください

JAあつぎの直売所ガイド



夢未市

厚木市温水255番地

☎046-290-0141

営業時間 午前9時30分～午後5時
休業日 毎月第3水曜日
(3月・9月は第2水曜日
8月・12月・1月は除く)
および1月1日～4日



グリーンセンター

厚木市及川1161-1

☎046-241-6150

営業時間 午前9時～午後5時
※精米機は
午後4時30分まで
休業日 毎月第2水曜日
(1月・5月は除く、
12月31日～1月6日)



キリトリセン

あつぎせせらぎ米
(4.5kg精米)



特別割引券

1,950円→1,700円(税込)

有効期限：2022年3月1日～31日まで有効
(但し土日・休業日を除く)
※夢未市・グリーンセンターでご利用いただけます
※1会計につき本券1枚限り有効(コピー不可)

夢未市で購入する農畜産物の魅力は何ですか？
(複数回答可)

1. 安全性
2. 安心感
3. 新鮮さ
4. 価格
5. 地場産
6. 品質
7. その他()

イベント情報など詳しい内容はJAあつぎホームページから夢未市のページでご確認ください

JAあつぎ

検索